



子どものまち・いえ ワークショップ提案コンペ

次世代を担う子どもたちが建築を学ぶ機会をつくりたい。このような思いから、わたしたち日本建築学会子ども教育事業部会では、1991年からワークショップ「親と子の都市と建築講座」を継続的に開催し、今年で30年目となりました。当初は、大学の先生や地域の専門家等がワークショップを企画運営していましたが、近年では、学生の瑞々しい感性から生まれるアイデアに可能性を見出し、学生が企画を提案する「子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」を開催しています。本コンペの最優秀賞企画は、ワークショップ「親と子の都市と建築講座」として実現します。企画運営の主体は、最優秀賞に選ばれた学生の方々です。そのため、企画運営の実現可能性が問われます。コロナウィルス感染拡大防止への配慮をはじめ、社会状況の変化に対応できる実現可能な提案をお待ちしています。

(A)応募票, (B)WS概要票, (C)プレゼンシートを

6月18日(金)17時までにメール添付にて提出して下さい。

日本建築学会「子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」係

担当：日本建築学会事務局 内野 uchino@aij.or.jp

(A)応募票と(B)WS概要票の書式は下記よりダウンロードしてください。(C)プレゼンシートはA3判1枚(横使い)で書式は自由です。

<http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2021/kodomo-compe2021.zip>

詳しくは裏面をご参照ください。

主催：日本建築学会

応募締切

6/18

メール受付

公開審査会

6/26

オンライン開催

第10回子どものまち・いえワークショップ提案コンペ 募集要項

【応募要項】

《応募対象》

- ① 1名以上からなる学生団体。(大学院・大学・専門学校等、ワークショップ経験有無は不問、円滑にワークショップ実施できる人数とすること)
- ② 代表者を1名選出し、事務局と連絡がやり取りできる状況であること。
- ③ 公開審査会当日の発表者は、オンライン発表のためのパソコン等の機器とインターネット環境が整っていること。

《応募書式》

- (A) 応募票、(B) WS概要票、(C) プレゼンシートの3点。
※(A) 応募票と(B) WS概要票の書式は下記からダウンロードすること。
<http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2021/kodomocompe2021.zip>
※(C) プレゼンシートはA3判1枚(横使い)で、書式は自由。PDF形式とし、データ容量を3MB以内で作成すること。

《応募方法》

- ① (A) 応募票、(B) WS概要票、(C) プレゼンシートを提出すること。
 - ② (A) 応募票には、代表者情報、団体メンバー情報を記入すること。
 - ③ (B) WS概要票には、実施予定日時・実施方法(企画条件参照)・当日スケジュール・スタッフ配置・予算等の各項目を記入すること。
 - ④ (C) プレゼンシートには、企画タイトル・コンセプトなど、ワークショップを実施するために必要な情報を明記すること。
 - ⑤ (C) プレゼンシートは、テーマを掲げて「子どものまち・いえワークショップ」を企画し、A3判1枚(横使い、書式は自由、PDF形式)にまとめて、(A) 応募票、(B) WS概要票を6月18日(金)17時までに、メール添付にて提出すること。
- ※上記③の内容はプレゼンシートに記載しないこと。
※ワークショップ実施にあたっては実行委員会を設立し、最優秀賞プログラムを軸に実行委員会で準備・運営を行うものとする。
※参加者募集(広報)については、子ども教育支援建築会議子ども教育事業部会が担当が、企画団体でも参加者募集を行うこととする。

《企画条件》

- ① テーマは特に絞らないが、「まち・いえ」(住環境)に関わる企画とする。
 - ② 実施方法については、対面式での実施の提案も可とするが、社会情勢によって“オンライン”での実施に変更できる提案とすること。
※企画段階から“オンライン”での実施を想定した提案も可とする。
 - ③ すでに主催者・団体が決定している企画については、主催者・団体名を記載すること。
 - ④ 過去に実施された企画を応募する場合は、開催実績を記載すること。
 - ⑤ 企画実施日は、2021年秋頃の土曜・日曜・祝日のいずれかの日程で行うこととする。※実施日は、審査会後に調整を行う。
 - ⑥ 実際に行うことが決定したプログラムに対しては本会より上限10万円をワークショップ実施費用として用意する。
※予算には、書類や道具の郵送料等も含む。
※場合によっては、複数の企画に予算を分配して、採択する可能性がある。
 - ⑦ 実行委員会には子ども教育支援建築会議子ども教育事業部会委員も参画し、実施に向けてサポート・アドバイスを行う。また、実施プログラムの著作権については、応募団体と子ども教育支援建築会議子ども教育事業部会に帰属するものとする。
- ※最優秀賞作品およびコンペに応募された全作品と公開審査会当日の様子を録画した記録は、部会HP等に掲載し、公開する場合がありますので、ご了承ください。

《応募締切》

2021年6月18日(金)(17時までにメール添付にて提出)

《応募先》

「子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」係
担当: 日本建築学会事務局 内野 uchino@aij.or.jp

《結果発表》

2021年6月26日(土)に「第10回子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」を実施し、公開審査会で最優秀賞を決定します。
※当日の詳細については、後日応募代表者にご案内します。

《企画発表会・公開審査会》

当日はオンラインで公開審査会を実施する。
※提出されたプレゼンシートは、公開審査会当日に事務局側で表示の操作を行います。

《日 時》

2021年6月26日(土) 13:00~

《場 所》

オンライン(後日参加者にIDやパスワードをご連絡いたします)

《審査委員》

- ・審査委員長: 山梨知彦(建築家、日建設計常務執行役員)
日本を代表する組織設計事務所で、神保町シアタービル・乃村工藝社本社ビル・木材会館・ホキ美術館・ソニーシティ大崎など、注目を集める作品の発表を続ける建築家。
- ・中津秀之(関東学院大学/建築・環境学部 准教授)
安全で創造的な子どもの遊び空間の研究をはじめ、設計実務・展示・ワークショップなどを通じて、生活環境・都市環境に提言を続けるランドスケープ・アーキテクト。
- ・木下洋介(構造家、木下洋介構造計画)
建築構造の専門家として多くの建築に携わる。
学生向けの仕事紹介セミナーや自身の子育てと仕事について書いた『子育てしながら建築を仕事にする』(共著)も一昨年版出版。
- ・土肥潤也(コミュニティファシリテーター)
静岡を中心に子ども・若者や本に関わるコミュニティ活動に取り組む。
NPO法人わかものまち/一般社団法人トリナス 代表理事、みんなの図書館さんかく館長、内閣府「若者円卓会議」委員。
- ・田中稲子(横浜国立大学 准教授)
専門は建築環境工学。杉並区エコスクールのための住環境学習プログラムの開発に携わる。住みこなしに関わる住環境リテラシー醸成のため、温熱環境を中心にさまざまな学習プログラムの開発と実践に取り組む。

《スケジュール》

- ① 2021年6月18日(金) 企画応募締め切り
- ② 2021年6月26日(土) 公開審査会(オンライン開催)
- ③ 2021年7月~秋頃 講座の企画・準備
- ④ 2021年秋頃 「親と子の都市と建築講座2021」
(対面式もしくはオンライン開催)

《過去の最優秀賞作品の紹介》

子ども教育支援建築会議のfacebookを通じて、事業やイベント等、さまざまな内容を発信しています。
一昨年実施されたコンペの様子も公開しています。
<https://www.facebook.com/rakurakukenchiku>



《参 考》

- 1) 日本建築学会子ども教育支援建築会議ホームページ
「楽々建築・楽々都市」 <http://news-sv.aij.or.jp/kodomo/>
- 2) 文献『楽々建築・楽々都市“すまい・まち・地球”自分との関係を見つけるワークショップ』日本建築学会編/技報堂出版